

# レジデント・シニアレジデント座談会

「新任シニアレジデント・レジデントを迎えて」



\*参加者\*

## ●シニアレジデント・レジデントの先生方

Dr. I : 呼吸器外科シニアレジデント (医師 9 年目 男性)

Dr. S : 病理診断レジデント (医師 9 年目 女性)

Dr. T : 外科シニアレジデント (医師 9 年目 男性)

Dr. Y : 外科シニアレジデント (医師 7 年目 男性)

Dr. J : 外科レジデント (医師 4 年目 男性)

## ●シニアレジデント・レジデント卒業生

Dr. No : 外科スタッフ (医師 13 年目 女性)

Dr. Ma : 消化器内科スタッフ (医師 12 年目 女性)

Dr. Yu : 他院外科スタッフ (医師 8 年目 男性)

Dr. Mi : 他院病理診断科スタッフ (歯科医師 17 年目 女性)

## ●進行役

Dr. Hi : 消化器外科医長 (研修指導担当)

## ■TCC の志望動機

Dr. Hi 「本日は TCC の現役レジデント・シニアレジデントの 5 名と、卒業生の 4 名の先生方に集ってもらいました。まずは、レジデント・シニアレジデントの先生方に、TCC での研修を選択した動機を教えてください。まず I 先生はいかがですか？」

Dr. I 「私は呼吸器外科になることを目指していますが、学会でここ（栃木県立がんセンター）の呼吸器外科の発表をみて、手術見学に来て、肺がんに対する手術件数も多く、ぜひここで勉強したいと思ってシニアレジデントに応募しました。」

Dr. S 「病理診断に進みたいと思っていたのですが、TCC のレジデント制度を知り、私も実際に見学に来て現場やカンファレンスの様子や研修内容をスタッフの先生方か

ら説明していただき、ここでの研修も病理診断の専門医を取得できることを知り応募しました。」

Dr. T 「私の場合は、以前、肝胆膵外科の研修で TCC に 2 年間勤務した経験のある先輩上司から、がんの手術の勉強をするならと強くすすめられて、見学に来てシニアレジデントに応募しました。」

Dr. Y 「私は大腸外科の専攻を希望して、腹腔鏡手術のトレーニングができる施設を探していました。いろいろな有名な施設にも見学に行きましたが、この栃木県立がんセンターでは、きちんと丁寧に指導がされていて、さらには日本内視鏡外科学会の技術認定医を毎年排出していることもあり、僕も技術認定医取得を目指してここでお世話になることを決めました。」

Dr. J 「僕は・・・、前任の上司に言われて・・・。」

Dr. Hi 「皆さん、いろいろな志望理由がありますが、やはり資格取得を目指した実際的な研修を志されているのですね。時代の流れですね。私の時とは違いますね、すばらしい。」

Dr. No 「実は私も、〇〇県の市中病院で外科のスタッフとして勤務していたんですけど、胃外科がやりたくて腹腔鏡の技術認定医を取得することを目指して、TCC のシニアレジデントになりました。それで今に至っています。」

## ■充実した生活環境

---

Dr. Hi 「では、TCC のレジデント環境はいかがですか？」

Dr. J 「以前勤務していた都内の研修病院では場所があまりなく窮屈でしたが、ここでは各自に十分なスペースがあるので在室時は満足しています。仮眠用のベッドもきれいですよね。」

Dr. T 「テレビにソファーに冷蔵庫、電子レンジとか色々揃っているから便利ですね。」

Dr. I 「物品は年々充実していると思います。」

Dr. Ma 「レジデント室での同期達との会話は何事にも代えられない財産です。」  
(女性医師がそろって)「そうそう！」

Dr. Hi 「さてここでビッグニュースですが、レジデント室を今年改修します！女性用更衣室を新たに増設して、レジデント室内の内装と机、椅子などの備品を一新します。」

Dr. その他全員「おおっ、すごい。やったあー。」

Dr. No 「NHK だけはなぜかうつらないんですけど・・・」

Dr. Hi 「えっ、そうでしたか。対応しますね。」

Dr. Yu 「あと、オンラインジャーナルも充実しています。英文誌は 100 誌以上、和文誌もダウンロードできるので助かっています。」

Dr. Ma 「Up To Date も、自分の机から見るができるよね。使ってる？」

- Dr.No 「レジデントの時はよく使っていました。」
- Dr.Yu 「あとはフォトセンターという、写真の専門家のスタッフが常駐してくれている部署があり、学会発表や論文に使用する写真の撮影や印刷のアドバイスを受けることもできます。他の病院にはないシステムです。」
- Dr.Hi 「手術の撮影にも大変お世話になっているんですよ。さすが専門家だけあって他施設のビデオに比べ圧倒的に鮮明できれいな映像をいただいています。内視鏡外科学会の技術認定医試験のビデオの相談もできますよ。」
- Dr.Y 「えっ、す、すごいですね。」
- Dr.No 「私も今年、受験するのでお願いする予定です。」

## ■毎日、頑張っています

---

- Dr.Mi 「Yu先生は、学会発表も頑張っていましたよね。去年もいっぱい発表していた印象があります。」
- Dr.Yu 「去年は全国学会や研究会やらで5件も発表しました。症例数が多いので治療成績をまとめるような発表もできるので良い経験でした。僕は3年目からTCCのレジデントになったんだけど、レジデント終了時に外科学会専門医を取得しました。シニアレジデントの時には消化器外科専門医の受験資格を満たすことができましたよ。」
- Dr.J 「がんセンターでも癌以外の心臓手術の経験はできるのですか？」
- Dr.Yu 「僕が勤めている済生会宇都宮病院はTCCと後期臨床研修共同プログラムという制度を運営していて、僕ががんセンターのレジデント時代に1年間、済生会宇都宮病院で一般救急診療や心臓血管外科を研修したんです。それらを登録して受験できるようになりました。」
- Dr.J 「とても柔軟な体制ですね。なんか、ますますやる気が出てきました。」
- Dr.Yu 「その研修がきっかけで、シニアレジデントが修了する時に済生会宇都宮病院の外科スタッフへの採用の声をかけてもらったんですよ。」
- Dr.I 「先生（Yu先生）、さすがですね。」
- Dr.Mi 「Yu先生は頑張り屋さんですからね。」
- Dr.Yu 「いやいや、そんなぁ・・・。」

## ■経験症例は件数・種類ともに豊富

---

- Dr.Ma 「手術も執刀させてもらえるんでしょう？」
- Dr.Yu 「はい。たくさん経験しました。肝切除や脾切除もやりました。肝胆脾の高難度手術も1年で20例近く執刀しました。」

- Dr. Hi 「だよ。シニアは少なくとも消化器外科学会の専門医取得を目指してもらからね。手術はしっかり見て、自分で実際に手を動かして、そしてまたしっかり見て、を繰り返していきながら習得しないとね。」
- Dr. Yu 「ありがとうございます。僕の先輩だったシニアレジデントの先生もたくさん手術をしていました。食道がんの根治手術や肝胆膵の高難度手術も執刀していました。胃や大腸の鏡視下手術も教えてもらってたし。その先生は、術者件数がこれだけあるから、ここにいる間に消化器外科専門医の資格もとれたと言っていました。」
- Dr. T 「その先生、僕の先輩です。」
- Dr. Ma 「先生はいかがですか？」
- Dr. I 「僕は外科専門医を取得してから TCC に来たので、ほんとに呼吸器外科手術の研修に専念できています。たくさん手術を指導いただいております。」
- Dr. T 「そうですか。よしっ、もっと手術ができるように頑張ります。」
- Dr. Y 「僕も技術認定とって、消化器外科専門医もとれるように頑張ります。」

とある先輩レジデントの執刀件数（外科ローテート18ヶ月間）

執刀手術術式	執刀件数
食道切除及び再建術	2
胃切除術（幽切、胃全摘及び鏡視下手術含む）	37
大腸・腸切除（鏡視下手術含む）	23
肝切除術	4
胆道手術	7
膵切除	2
その他（ヘルニア、胆石など）	37
計	112

## ■レジデントをマンツーマンで指導

- Dr. Y 「Yu 先生も目標の実現に必要な科やローテーションする順番は、カウンターパート（指導係）の先生と相談して決めたのですか？」
- Dr. Yu 「時間をかけて相談しました。僕は肝胆膵外科を専門にしたいと伝えると、カウンターパートの先生から、CT などの画像診断や病理診断の大切さなどをアドバイスされたので、いずれも時間を多く確保して研修しました。日常業務のことも業務外のことも、カウンターパートの先生に気軽に相談できるのは良い制度だと思います。」
- Dr. No 「入職後の4月の最初にレジデントとカウンターパートの先生全員が集まって、相談してローテーションする順番を決めるでしょ？あれはすごく良いと思う。ロー

テーションする科も比較的自由に選択できるし。」

Dr.Mi 「各科の垣根が低いから、他科の先生もローテーションについて相談に乗ってくれるからね。」

## ■がん診療、基礎をおろそかにするべからず

Dr.Mi 「S先生、病理研修の雰囲気はどうか？」

Dr.S 「すごく充実しています。3人の病理指導医がいるので、それぞれの先生について基礎的なことから専門分野まで丁寧に指導していただいています。色々な先生から栃木県立がんセンターの病理は勉強になるよ、とアドバイスされてたけど、本当にその通りです。剖検例もあります。」

Dr.Yu 「病理は大事ですね。がんセンターに来たからこそその研修だと思います。ローテートで病理を勉強していなかったら、手術した結果を、ただ病理の報告レポートを鵜呑みにするだけの診療のままだったと思います。画像診断もしっかり勉強できてよかったのですが、臨床像-画像所見-病理診断がローテーション後にはいつの間にか頭の中で結びつくようになっていました。外科医として、がん診療を系統的に身につけられる教育システムをとっているプログラムはすごいと実感していますよ。」

Dr.I 「留学生とか見学に来る先生も多いですよ。私も病理に行ったら頑張りますよ。」

Dr.T 「J先生、病理をローテートする気になった？」

Dr.J 「ちょっと。いや、はいっ。」

Dr.Yu 「本当に一生ものだからぜひローテしたほうがいいよ。」

## ■栃木の名物は餃子？お肉？

Dr.Yu 「ところで、皆さんは休日にはどこかに出かけていますか？」

Dr.Mi 「日光、鬼怒川、那須高原、遠出するなら軽井沢とか。」

Dr.No 「私は買い物かな。大きなショッピングモールもあるし、高速で少し走れば佐野アウトレットもあるし。東京も近いですよ。」

Dr.I 「東京まで新幹線で50分は便利です。東京の研究会にも日帰りで出かけられるので、平日の研究会にも夕方から出かけられます。」

Dr.Ma 「私は子供がいるので育児ですね。平日は病院の隣にある保育園にあずけっぱなしなので週末は家族の時間を大切にするようにしています。」

Dr.No 「あとは、院内の職員でいろいろなサークル活動があって楽しいですよ。私は大学時代バドミントン部だったんだけど、院内のバド部には行ってます。」

Dr.I 「運動できる環境って、いいですよ。すっきりしますよね。」

- Dr. Y 「バレー部ありますか？」
- Dr. No 「あるある。あと、フットサルもあるし、着物クラブもあります。」
- Dr. S 「えーっ、私も着物クラブで着付け習いたいですよ。」
- Dr. J 「なんか、とってもいい環境ですね。小、中、高、大学とサッカー部出身なんでフットサルに入ります。」
- Dr. Hi 「さて、そろそろ時間ですが、皆さんこの座談会の打ち上げにはこられる？  
焼肉どうですか。栃木は実はお肉が名物ですよ。」
- Dr. S 「いいですね。大丈夫。一応、旦那に許可とります。」
- Dr. Y 「餃子もいいけど、私も肉が美味しいと思ってました。栃木の焼肉最高です。」
- Dr. No 「二次会はあそこのジャズバーでしょ？」
- Dr. T 「宇都宮は日本のニューオリンズみたいなところですよ。カクテルも有名だし。」
- Dr. I 「言ったもん勝ちだなあ・・・」
- Dr. Y 「おしゃれなバーにいったみたいっす！」
- Dr. J 「肉食いたっす！」
- Dr. 卒業生 「では、先輩達のおごりで。」
- Dr. レジデント達 「ごちになります！」



レジデント先生方の生活を支える宿舎は徒歩圏内に完備（病院屋上から撮影）